

5 障害のある子どもや外国人の子どもなどの読書活動の推進

No.	事業名	事業内容	指標	18年度	19年度	20年度	21年度実績		関係部局・団体
							実績	実施状況と課題	
97	読書活動	保育や教育の場で子どもの状況に応じて、日常的に絵本の読み聞かせや子どもと本をつなぐ取り組みを行う。					実施	生徒や教職員が興味のある本を選び学習や趣味の時間に活用した、特に絵本などは病院の患者の方々も利用し役立った。	刀根山支援学校
							実施	保育室や待合室に子どもが自由に手に取ることができるように絵本棚を設置。ひとりの子どもの選んだ本をクラスで読み聞かせを繰り返すうち、クラス全体でも好きな本になり、そこから遊びに発展することも多い。保護者にクラス懇談会や月のおたより等で、そのような子どもの姿を紹介しながら、絵本やおはなしが子ども同士をつないでいるということを伝えている。今後も続けていきたい。 ・外来訓練利用児(年齢は主として3歳未満児)については、毎週保育の場を提供しているが、毎回絵本の読み聞かせを行っている。子どもたちが、絵本を楽しむ姿を保護者の方に知ってもらおうと同時に、その時々のお話や、なぜ、子どもたちの心を捉えているのか、というようなこともピンポイントで伝え、保護者の方自身に子育ても絵本も楽しんでもらう場としてのとりくみをしている。	しいの実学園
							実施	設定保育の導入や給食準備中、自由あそびの時など絵本を読む機会をもっている。絵本のお話がクラスの遊びに発展することもある。子どもが絵本に興味がないと思っている保護者の方に子どもが興味を持ちそうな絵本の紹介をしてきた。引き続き保育の中に積極的に取り入れていきたい。	あゆみ学園
							実施	朝の会や授業などで紙芝居の読み聞かせをしたり、絵本を読む機会をもち、国語の勉強に役立てている。また、授業で近くの図書館を訪問し、豊富な本の中から、自分で興味のある本を選び本に親しむ機会をもった。	豊中支援学校

No.	事業名	事業内容	指標	18年度	19年度	20年度	21年度実績		関係部局・団体
							実績	実施状況と課題	
98	「おやこでにほんご」	地域に暮らす外国人親子が安心して参加することができる親子参加型日本語教室を図書館で継続して行う。		「おかまち・おやこでにほんご」年40回外国人:大人161人子ども96人、ボランティア:大人285人子ども113人 「しょうない・おやこでにほんご」年32回外国人:大人104人子ども52人、ボランティア:大人182人子ども71人(のべ人数)	「おかまち・おやこでにほんご」年38回外国人:大人96人子ども71人、ボランティア:大人220人子ども149人計536人 「しょうない・おやこでにほんご」年42回外国人:大人166人子ども75人、ボランティア:大人220人子ども112人計573人	「おかまち・おやこでにほんご」年34回外国人:大人113人子ども107人、ボランティア:大人188人子ども86人計494人 「しょうない・おやこでにほんご」年37回外国人:大人80人子ども49人、ボランティア:大人196人子ども140人計465人	「おかまち・おやこでにほんご」年32回外国人:大人65人子ども29人、ボランティア:大人171人子ども84人計349人 「しょうない・おやこでにほんご」年39回外国人:大人97人子ども31人、ボランティア:大人245人子ども131人計504人	毎週火曜日10時から外国人親子のための居場所づくりを行っている。毎回数組の外国人親子が参加し、子育ての情報交換や日本語に触れたり、絵本の読み聞かせを行っている。読み聞かせは、外国人親子による母語の絵本の読み聞かせを行うことで、子どもたちが母語に触れる機会を提供している。外国人親子にとって日本社会で生活していく上で日本語は必要不可欠であるが、同時に母語・母文化の継承は、親子の断絶を防ぎ、親の精神的安定や子どもの心身の発達に重要な影響を与える。このことを踏まえ、図書館のもつ資源(外国語の絵本など)を活かし、活動に外国人親子の母語による絵本の読み聞かせを積極的に盛り込むことで、外国人親子のコミュニケーションや母語の継承につなげていく。また、日本社会(地域社会)へも母語保持の大切さを認識し理解してもらえる取り組みも考えていく。 地域で孤立している外国人親子が「おやこでにほんご」の事業と出会えるように、保健師や地域支援保育士(こんにちは赤ちゃん事業)と連携していく。	〇おやこでにほんご とよなか国際交流協会 市立図書館
99	市立図書館における多文化サービスの充実	外国人市民が図書館を利用するきっかけとなる事業や、地域の多文化共生を推進するための事業を図書館、とよなか国際交流協会、市民団体(地球ママくらぶ等)が連携して行う。	おはなし会の回数参加人数	4回 151人	3回 137人	東豊中「中国語でおはなし会」1回60人、野畑1回90人、岡町「子どもと本のまつり」1回40人、千里5回99人計289人	岡町「子どもと本のまつり」1回33人、東豊中2回84人、千里「絵本を楽しもうinコラボ」7回76人、「多文化フェスティバル」1回8人、計201人	今年度は、「おやこでにほんご」に参加する外国人親子の協力により東豊中図書館で「外国語おはなし会」を、また、「おやこで多文化共生まつり(しょうないREK主催)」で多言語での読み聞かせを行った。 平成20(2008)年度から千里図書館で始めた、豊中市北部・東部に暮らす外国人が集い、生活情報の提供や相談ができる場づくり事業「絵本を楽しもうinコラボ(千里文化センター)～外国人親子の交流会」も継続して行った。また、この事業を広く地域の人たちに知ってもらうために「コラボ多文化フェスティバル(絵本の読み聞かせ、外国語遊びコーナー、民族衣装のファッションショー、韓国料理・フィリピン料理、フリマ)」を実施し、引き続き千里地域に暮らす外国人親子に働きかける事業を行った。 また、今年度は外国人親子対象に読書活動の状況や彼らのニーズを知るために聞き取りアンケートを行った。(回答数:外国人保護者31人、小学生以上の子ども11人)	市立図書館 市民団体 (地球ママくらぶなど) とよなか国際交流協会
100	「おはなし指導者派遣事業」	豊中おはなしの会の協力を得て、日ごろ図書館を利用しにくい子どもたちに出前のおはなし会を行う。平成20年度より「おはなし会がやってきた!」に変更。おはなし会ごとに子ども文庫やおはなしグループに個別に依頼する形とした。 [58、83、135にも掲載しています。]	回数参加人数	4カ所 5回開催 227人	8カ所 9回開催 984人	7カ所 9回開催 661人	4カ所 7回開催 360人	民間保育園1園、支援学校1校(4回開催)、障害児通園施設2園でおはなし会を行った。	市立図書館

No.	事業名	事業内容	指標	18年度	19年度	20年度	21年度実績		関係部局・団体
							実績	実施状況と課題	
101	子ども文庫での活動	子ども文庫が地域の中で本に出会える場であるということや外国人の子どもも絵本やおはなしを楽しめる場となるよう、図書館やとよなか国際交流協会などと連携して活動する。						「子どもと本のまつり」で「国際交流会とよなかTIFA」のメンバーによる多言語おはなし会をおこなった。今後も継続して進めていきたい	○豊中子ども文庫連絡会 市立図書館 とよなか国際交流協会
102	絵本講座の開催	保護者に子どもの読書の楽しさや大切さを伝える取り組みを行う。	回数人数		1回 15人	実施回数6回、外国人大人20人、外国人子ども19人、日本人大人19人、日本人子ども16人、計74人	未実施	障害のある子どもや外国人の子どもに向けて読み聞かせやおはなし会の機会はあがるが、単独で絵本講座を実施できていない。今後は通園施設や国際交流協会と連携しながらどのような形で実施可能か再度検討する必要がある。	市立図書館
	絵本講座の開催	保護者に子どもの読書の楽しさや大切さを伝える取り組みを行う。					未実施	2009年度は実施していない。今後は、外国人親子の状況や課題に合わせて、実施方法や内容を図書館と検討していく。	とよなか国際交流協会
103	保護者への図書館利用の案内	障害のある子どもの保護者や障害のある保護者が子どもと一緒に図書館を利用しやすいように、利用の方法など図書館のサービスについて詳しく案内し、同時に保護者の声を聞く機会を定期的に持つ。					2回	しいの実学園、あゆみ学園の子どもたちが図書館見学で来館したおりに、図書館利用の案内を合わせて実施した。	○市立図書館通園施設
104	図書館見学会	通園施設や支援学校の子どもと保護者に対して図書館見学会を行う。	実施回数参加人数		1回 10人		1回	新型インフルエンザの流行で見学会を計画・実施しにくい状況だった。年長クラスの親子遠足当日が雨天だったため、急遽行き先を高川図書館に代え、親子で見学させていただいた。車椅子で動きやすいこと、子どもたちがのびのびと本を選べる環境を初めて目の当たりにされ「図書館に対する印象が変わった」という保護者もいた。クラスごとに親子で見学会をすれば実施しやすいのではと思う。	しいの実学園

No.	事業名	事業内容	指標	18年度	19年度	20年度	21年度実績		関係部局・団体
							実績	実施状況と課題	
104	図書館見学会	通園施設や支援学校の子どもと保護者に対して図書館見学会を行う。	実施回数 参加人数		親子25組、 保育士12名	親子23組 保育士15人	親子25組、 保育士16名	平成21(2009)年度も単独クラスの親子と担任で野畑図書館を見学した。お話し会の後、親子で絵本をみたり、借りたりした。今年度も貸切ということで、親子ともリラックスして楽しめた。見学会後アンケートをとった。回収率84%。「今まで図書館を利用されたことがある」は76%と高いが、利用したことはあるが行きづらさを感じられている方も多く、今回「きがねなく楽しめた」、「いつもより落ち着いてすごせた」などの声も聞かれた。今回5・6才児の利用率84%も高く、見学会を続けてきた成果を感じる。また「見学会を続けて欲しいか」については85%と高く、図書館見学会の意義を感じる。	あゆみ学園
105	図書館見学会	外国人の子どもや保護者、その支援に関わる協力者に対して図書館見学会を行う。	実施回数 参加人数	1回実施 親子7組、 ボランティア3人参加		「おかま ち・おや こ」図書 館見学 会1回 実施、 外国 人：大 人1人 子ども 1人、 ボラ ンティア ：大人 3人子 ども1 人計 6人	「おかま ち・おや こ」図書 館見学 会1回 実施、 外国 人：大 人3人 子ども 1人、 ボラ ンティア ：大人 4人子 ども1 人計 9人	「おやこでにほんご」に参加している外国人親子対象に図書館探検プログラムを行ったり、新しい参加者が来た際に利用説明を随時実施した。内容は、図書館利用者カードの申し込み、図書館の使い方と各フロア、特に「世界のこどもの本の部屋」の案内をし、「おやこでにほんご」に参加した外国人が図書館サービスを利用できるようにしている。これをきっかけに外国人親子が図書館を利用することが少しずつ増えている。今後は、見学会参加者から意見やアドバイスを貰い、見学会のやり方(多言語の通訳などをつけるかなど)も改善していく。	○市立図書館とよなか国際交流協会市民団体(地球ママくらぶなど)
106	動く図書館による施設サービスの充実	動く図書館が通園施設や支援学校、保育所を巡回して、子どもや教職員が直接選んだ本を貸出しする。動く図書館の巡回について、教職員や保護者の意見に対応し、各施設の読書環境の整備を支援する。	動く図書館で巡回している施設数 貸出冊数	養護学校2校、 通園施設2園、 7,572冊	支援学校2校、 通園施設2園、 6,640冊	支援学校2校、 通園施設2園、 4,671冊	支援学校2校、 通園施設2園	約4週間に1回、各施設を巡回して貸出を実施。子どもが直接本を選ぶとともに、教職員の保育用資料や保護者向けの資料も貸出している。支援学校1校について、授業の都合で生徒が直接本を選ぶ機会が減ったため来年度は年度当初に学校と調整を行うことが課題。	市立図書館
107	小児科病棟でのおはなし会の実施	市立豊中病院とおはなしボランティア(おはなしたまてばこ)、市立図書館が連携し、小児科病棟でのおはなし会を行う。	おはなし会の回数	43回	39回	48回	48回	子どもたちの年令も幅広く、絵本選びなど難しいこともあるが、つきそいの家族の方々と一緒に楽しんでいるようすをみるとこちらもうれしく思う	○おはなしたまてばこ市立豊中病院市立図書館
108	「図書館バリアフリー宣言」	だれもが使ってみようと思う、そして使いやすい図書館をめざして、図書館のバリアフリー宣言をし、様々な場面でPRする。 [124にも掲載しています。]					実施	館内でバリアフリー宣言「図書館へようこそ」のポスターを表示し、ホームページでの掲示を行っている。職員の中には名刺に印刷することで広く周知をはかっているものもいる。	市立図書館
109	絵本などの情報提供	図書館のホームページやケーブルテレビで本の紹介などを行う。 [6、141にも掲載しています。]					実施	HPで本を紹介するリストなどを掲載しているが、定期的なコンテンツの更新まではできていない。またケーブルテレビでの本の紹介については未実施。平成21(2009)年度からメールマガジンによって児童書を含めた新着図書のご案内を送付している。	市立図書館

No.	事業名	事業内容	指標	18年度	19年度	20年度	21年度実績		関係部局・団体
							実績	実施状況と課題	
110	図書館のPR	渡日外国人児童生徒の相談窓口、外国人登録窓口、とよなか国際交流協会などで、多言語の図書館利用案内を配布する					実施	多言語の利用案内が完成。平成22(2010)年度より広く周知を行う。今後はHPに掲載するなど幅広くPRする必要がある。	○人権教育企画課 ○とよなか国際交流協会 市立図書館 市民課
111	市立図書館の外国語資料の充実	関係団体と協力し、外国人市民の意見やニーズを把握しながら、市立図書館の外国語資料を購入や寄贈によって充実するとともに、岡町図書館の「世界のこどもの本の部屋」をより利用しやすいものにする。 〔151にも掲載しています。〕	新規受入冊数 所蔵冊数	95冊、7,247冊	148冊、8,456冊	95冊、8,851冊	85冊、8,595冊	平成21(2009)年度も継続して多言語の資料を購入した。またとよなか国際交流協会およびボランティアの協力により、外国語の絵本リスト(9言語)を作成した。	市立図書館
112	資料の充実	図書の購入や市立図書館の団体貸出、リサイクル図書や寄贈図書を利用することによって絵本などの図書資料を充実する。 〔153、154をご参照ください。〕					実施	大型本やCDなど高額で購入できないものを借りることで授業に役立った。保護者や病院の方々も図書コーナーの本を利用している。	刀根山支援学校
	資料の充実	図書の購入や市立図書館の団体貸出、リサイクル図書や寄贈図書を利用することによって絵本などの図書資料を充実する。 〔153、154をご参照ください。〕					実施	移動図書館による団体貸出、リサイクル図書、寄贈図書などにより、図書の充実をはかることができています。保育に使用したい本を前もって図書館に連絡して持ってきてもらうことも増えてきている。	しいの実学園
	資料の充実	図書の購入や市立図書館の団体貸出、リサイクル図書や寄贈図書を利用することによって絵本などの図書資料を充実する。 〔153、154をご参照ください。〕					実施	大型絵本など、なかなか買えない本を動く図書館で借りることで、いろいろな絵本の楽しみを提供できた。デイサービスでも幼稚園に行っている子を対象としたクラスの絵本を充実させることもできた。リサイクル図書を利用することで園バスにおく本も増え楽しめている。	あゆみ学園
	資料の充実	図書の購入や市立図書館の団体貸出、リサイクル図書や寄贈図書を利用することによって絵本などの図書資料を充実する。 〔153、154をご参照ください。〕					実施	月に一度動く図書館を利用している。学校の図書室にはない本や紙芝居を借りることができ、子どもたちはこの日を心待ちにしている。	豊中支援学校

No.	事業名	事業内容	指標	18年度	19年度	20年度	21年度実績		関係部局・団体
							実績	実施状況と課題	
113	資料の充実	図書館が通園施設や支援学校の教職員とともに、施設で活用される資料の情報交換を行い、障害のある子どもにとって有効な資料を研究し、選書に反映する。 〔150にも掲載しています。〕					実施	図書館からの資料などについて情報を受け、学校の資料充実に向けて活用している。今後も選書の参考とするため、特に中高校生向けを中心とした情報を希望する。教職員は教材作りに役立っている。	刀根山支援学校
	資料の充実	図書館が通園施設や支援学校の教職員とともに、施設で活用される資料の情報交換を行い、障害のある子どもにとって有効な資料を研究し、選書に反映する。 〔150にも掲載しています。〕					実施	選書に反映されるよう、園で活用したい図書名を市立図書館や動く図書館へ情報提供している。	しいの実学園
	資料の充実	図書館が通園施設や支援学校の教職員とともに、施設で活用される資料の情報交換を行い、障害のある子どもにとって有効な資料を研究し、選書に反映する。 〔150にも掲載しています。〕	施設数	2カ所	支援学校2校、通園施設2園	支援学校2校、通園施設2園	支援学校2校、通園施設2園	施設や学校で活用される資料の、要望やニーズについて巡回時に情報交換している。そして動く図書館に積み込む資料に反映して、施設や学校の読書環境の整備につとめている。施設の職員や保護者と直接交流の場を持つことが課題だが、今年度もできなかった。利用案内等は年度初めに配布、担当の職員の方には口頭でも説明している。	市立図書館
114	外国語資料の整備	英語以外の外国語資料について、蔵書検索ができるように研究を行う。また市立図書館ととよなか国際交流協会が資料の情報を共有し、分担収集をするなど、ともに蔵書の充実を進める。				16冊	32冊	言語的マイノリティに置かれる外国につながる子どもたちが、乳幼児期から母語や絵本と出会うために2007年度に「多文化子ども読書推進事業」を立ち上げ、外国語絵本コーナーを整備し、外国につながる子どもたちの参加する事業(多文化子ども保育にこにこ、子ども母語、日本語・学習支援サンプレイスなど)で絵本を使った活動を積極的に取り入れ、保護者には貸出サービスを紹介している。今年度は増加するネパール人親子のために、ネパール語の絵本を18冊購入した。また、市立図書館にある外国語絵本を有効活用できるように、外国語絵本のリスト(9言語)を作成し、図書館カウンターで案内できるように整備した。	とよなか国際交流協会
	外国語資料の整備	英語以外の外国語資料について、蔵書検索ができるように研究を行う。また市立図書館ととよなか国際交流協会が資料の情報を共有し、分担収集をするなど、ともに蔵書の充実を進める。 〔152にも掲載しています。〕					実施	英語以外の多言語のデータについては未整備となっているが、とよなか国際交流協会およびボランティアの協力を得て一部の蔵書について言語別のリストを作成した。	市立図書館
115	団体貸出のPR	関係機関・団体に向けて団体貸出の制度をPRし、冊数や期間など各施設の状況に応じて団体貸出を行う。					実施	障害児通園施設などでの団体貸出については制度の周知はできているが、予約制度などのPRがいきわたっていない部分もあり、今後は施設の職員や保護者と情報交流の場を持つ中で情報提供していくことが必要となる。	市立図書館
116	排架やサインの見直し	利用者が図書館職員に相談しやすい雰囲気づくりに努め、市立図書館の資料を利用しやすいよう、サインや排架の見直しを行う。					実施	各図書館では多言語での対応が可能なように指差しコミュニケーションカードを設置した。また庄内図書館では各分類の棚並びをNDC(日本十進分類法)に沿った順番になるよう移動させ、探しやすいとした。	市立図書館

No.	事業名	事業内容	指標	18年度	19年度	20年度	21年度実績		関係部局・団体
							実績	実施状況と課題	
117	多言語の利用案内やサインの作成	子ども向けの利用案内やサインなどを多言語で対応できるものにする。					実施	多言語の利用案内が完成。平成22(2010)年度より広く周知を行う。	市立図書館 国際交流協会 市民団体(しょうないREK)
118	入院中の子どもの読書環境整備	市立豊中病院と市立図書館が連携し、患者用図書室などを充実し、入院中の子どもの読書環境を整備する。	病院への団体貸出しの冊数	28冊	26冊	24冊	17冊	昨年度に引き続き小児病棟への長期貸出しを実施。	○市立豊中病院 市立図書館
119	ボランティア活動への支援	録音図書、点字図書や拡大写本など、障害のある子どもにも有効なメディアを研究し、製作に携わるボランティアを育成・支援する。	音訳ボランティアフォローアップ講座などの回数参加人数	3回 28人	3回 36人	2回 16人	2回 17人	「音訳ボランティアフォローアップ講座」を実施した。また蛸池図書館では寄贈点字絵本の展示会を実施した。	○市立図書館 ひまわり教育センター
120	おはなしボランティアへの支援	障害のある子どもや入院中の子ども、外国人の子どもに向けておはなし会を行うボランティアに対して市立図書館が図書資料や情報などを提供する。					実施	「おやこでにほんご」など、障害のある子どもや外国人の子どもに関わる活動に利用される絵本や紙芝居などの資料を提供している。	市立図書館
121	市民向けの啓発事業の実施	市民に向けて、障害のある子どもに対して理解を求める取り組みや啓発を行う。	回数参加人数			1回 215人	実施	蛸池図書館で寄贈展示絵本の展示会を実施した。	市立図書館 通園施設 支援学
122	職員の研修	障害のある子どもや外国人の子どもを取り巻く状況など、多様な子どもの情報を共有できるよう教職員の研修を行う。	実施回数	5回	5回	5回	4回	あゆみ、しいの実の両園で、親子クラスについて、互いの保育の会議と勉強会を行い、それぞれのこどものおかれている状況、親子関係についてなどを学びあった。	通園施設
	職員の研修	障害のある子どもや外国人の子どもを取り巻く状況など、多様な子どもの情報を共有できるよう教職員の研修を行う。	職員研修の参加人数	人権研修「豊中市第3次障害者長期計画」69人		1回 8人	実施	平成20(2008)年度の「おはなし会がやってきた！」による通園施設や支援学校でおはなし会を実施したグループと図書館のこども室担当者で情報交流を行い、研修の機会とした。	市立図書館
123	情報交流と研修	図書館や各施設で行う研修の情報を共有し、研修の機会を広げる。 〔76、163をご参照ください。〕					実施	障害のある子どもや外国人の子どもに関する情報の共有をすすめるため、研修や講演会などの情報提供を行っている。	市立図書館